

名寄での4年間の生活を振り返って

スクの着用が普通で、同じ学科の人たちの顔が分からず、顔と名前が一致しませんでした。1-2カ月間授業が開講されず、家にいただけなのを今でも覚えています。

私は、コロナ渦のなか入学しました。大学に行くときはマ

う形の実施でした。夏でもマスク、フェイスシールド、ビニール手袋を着用するように言われ、息苦しかったことを今でも覚えています。それが少しずつ緩和され、現在感染対策を取りつつですが自由に行動ができるようになりました。

その後少しずつ授業が開講されるようになり、オンライン授業が主で時々対面授業がありました。しかしクラス全員でやることは難しく、学籍番号で分けて行

きたのは先生方、そして先輩、後輩、友人とたくさんの仲間達がいいたからです。生きていくうえで人のつながりが欠かせないものであり、たくさんの人と出会うことで、自分の人生が豊かになることを名寄で学ぶことができました。

このようにとても大変な日々でしたが、こんなにも充実した思い出が残る時間を過ごすことができたのは先生方、そ

同時に、先輩や後輩と協力し、たくさんのお客様とかかわる楽しさを学びました。

私生活では、友人と大学と一緒に通学したり、買い物やごはんを食べに行ったりと多くの時間を過ごしました。こんな日々が続けばいいのにと思う程、とても素敵な思い出です。

4年生になって、保育実習、就職活動、卒業論文とやることが増えましたが、授業数が減り、友人と大学で会う機会が減ってしまいました。



せんでした。この名寄市立大学にきたことで名寄を知ることができました。たくさんの人たちと出会い素敵な時間を過ごせ

でも、みんなで励ましいい息抜きをしつつ、この時期を乗り越えようと頑張っています。

残りの学生生活も人とのつながりを大切に、過ごしていきたいと思っています。

私は道外出身で名寄市のことを知りま

社会保育学科4年
橋本綾香